

令和7年度 大木中学校・学校関係者評価書

- 【学校教育目標】 「生きる力」を身につけ、未来を切り拓く生徒の育成
- 【めざす学校像】 「生徒と教職員の笑顔が通う学校」
～すべての生徒が安心して学べる学校～
- 【めざす生徒像】
- 自ら学び、仲間とつながり合い、ともに高めあえる生徒
 - 自ら考え、全力で行動する生徒
 - 自らの努力で、未来を思い描き実現するために努力できる生徒
- 【めざす教師像】
- 責任感が強く、生徒の人格と個性を尊重した指導ができる教師
 - 社会のニーズを把握し、探究心を持って、自主的に学び続ける教師
 - 豊かな人間性や社会性を持ち教職員や家族・地域等との信頼関係を築く教師

No.1

	達成方策	R7年度の活動と短期目標・指標	達成状況	成果と課題	関係者評価	今後の改善点
確かな学力の育成	自分で学ぶ力の育成に向けた授業改善、授業づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ①「授業力UP5」の基づく授業改善を図る。 ②「学び方を教える」ことも意識し、「探求のプロセス」に沿った授業を目指す。 ③学習の流れを事前に示し、主体性を伸ばす ④授業公開週間を設定し、すべての教員が公開授業を行い、授業力を向上させる。 ⑤全国学力・学習状況調査及びみえスタディチェックの全職員での実施や自校採点からの課題から授業改善を図る。 <p>※全国学力調査の平均正答率 全教科全国・県平均以上 ※みえスタディチェック正答率 全教科県平均以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①～③を意識しながら、授業改善やそのための校内研修等を実施できた。 ④実施できた ⑤学力調査については、国数ともに全国平均、県平均を下回った。特に数学は、-5.0以上。みえスタについては、2年生では全教科で+5.0以上、1年生は全教科で-3.0程度となった。(ともに県平均との比較) 	<p><成果> 授業改善をするうえで、教員間での対話が増え、組織的に改善に取り組めた。良い取り組み(生徒にS・A・Bの目標を選ばせる)については、自然と広がっていった。</p> <p><課題> 1・3年で県の平均を下回った。今回の結果の分析をふまえ、授業での指導に生かす</p>	<p>・自分で勉強する力をしっかりと身につけてほしいです。授業中に「何をしているかわからなくなる・・・」とアンケートにあったようですが、「何がわからないのか」を明確にさせていく、等しく誰一人取り残さないようにご指導ください。</p> <p>・「学び方を教える」事は、生徒にとって理解を深める事や「ヒントを考えて自分で考える」事につながります。「なぜそうなるのか」と具体的に示したり、どのように学んでゆけば良いか必要なタイミングで示したりしながら、学ぶ事が意欲が持てる指導をお願いします。</p>	<p>・「わかる」ことは、生徒の学習意欲にもつながり、自ら学ぶきっかけになるため、個々のつまづきをしっかりと把握し、理解につなげる。またわからないときに周囲に聴けるような関係性や仕組みをつくる。</p> <p>・教科特有の見方や考え方を生徒と共有し、何を意識して学べばよいのかを明確にする</p>
	基礎学力の定着(家庭学習・学習支援・読書活動の充実)	<ul style="list-style-type: none"> ①授業の課題が達成できるよう、困っている生徒を中心に支援 ②定期考査前の補充学習(2日間)を行う ③1、2年生は朝の10分間読書に取り組む。読書週間(2回以上)を実施する。 ④読書の木作成 	<ul style="list-style-type: none"> ①②できた。 ③④概ね達成。メディアセンターを積極的に活用し、図書関連のイベントも開催。 	<p><成果> 定期考査前の補充学習では、積極的に先生に質問したり、黙々と取り組む生徒の姿が見られた。</p> <p>読書については、図書関連のイベントなどが多く実施でき、メディアセンターに来る生徒が増えた。</p> <p><課題> 授業中の支援は、授業者だけで行うのには限界がある。そのため生徒同士で教えあう関係などを築くことが必要。補充学習も読書も、意欲に差がある。特に学習は、本当に必要な生徒が補充学習にこれるようにしていく必要がある。</p>	<p>・読書習慣も身につくと学力向上につながると思います。日曜日等の開放図書館をもっと利用したり、10分間読書を継続してください。</p> <p>・定期考査前の補充学習は塾に行っていない生徒からすると助かっていると思う。</p> <p>・必要な生徒さんが少しでも参加できるような工夫をぜひ、お願いします。</p>	<p>読書週間の確立に向けて、1・2年生では朝読書の時間を継続。またメディアセンターを活用する頻度を増やす。</p> <p>放課後学習は、必要な生徒に声をかけ参加を促す等来やすい環境を作る</p>
	ICTを活用した授業の改善(一人一台端末による学習の質の向上)	<ul style="list-style-type: none"> ①授業内でICT機器を意図的に使用し、生徒の表現活動の幅を広げたり(個別最適化)、手軽に他者参照をできたりする場面を作る。 ②家庭学習にも活用の幅を広げ、授業と家庭学習のシームレス化を目指す。 ③自由表現の拡充を目指す。(Canvaの使用など) 	<ul style="list-style-type: none"> ①振り返りシートなどはICT機器を使用し、相互参照できる仕組みを採用している教職員が多くなっている。スライド作成やプレゼン発表などの自由表現(個別最適)を設定している授業を行う先生方が増えている。 ②家庭学習にはICTを使用する良さもあれば、紙面で行う良さがあるので場合によって使い分ける必要がある。ICTをうまく使い、子どもたちのモチベーションの保持などには効果的に使用していきたい。 ③全員研修の中でCanva研修を行った。そのスキルが生徒にも還元され、社会見学や修学旅行などの新聞作成にも使用されている。 	<p>【成果】 ICTを使うフェーズから効果的に使用するフェーズに移行していると感じる。教職員一人一人のICTスキルの向上を促していきたい。</p> <p>【課題】 目まぐるしく技術が発展していく分野で、新しいものをどんどん取り入れていくだけの余裕、時間の確保が必要だと感じる。</p>	<p>ICTの活用は、次代を担う生徒が社会で活躍するための必須スキルと言えます。Canva等の最新ツールの導入と、従来の手書きや紙面の学びを「目的」に応じて使い分けることで、学習の質を向上させることが重要です。</p> <p>また、ICT支援員などの専門人材を確保し、教職員の負担を軽減しつつ、教育環境を最適化する体制構築が求められます。教員と生徒が共に新技術へ前向きに取り組む、時代に即した教育活動を展開することが、魅力ある学校づくりと質の高い学びの実現に直結すると評価されます。</p>	<p>ICTと紙を併用し、Canva等で表現力を高める授業を推進します。ICT支援員等の専門スタッフと連携して指導体制を整え、生徒が楽しみながら将来に役立つスキルを習得できる環境を作ります。</p>

	達成方策	R7年度の活動と短期目標・指標	達成状況	成果と課題	関係者評価	今後の改善点
豊かな心の育成	教育的に不利な環境のもとにある子どもを中心とした仲間づくり	合理的配慮をしながら、個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた授業改善に取り組んだり、小グループを活用したソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターによる人間関係作りを行ったりする。 ※ アンケート調査「安心して学べる学校を目指して」における設問「クラスでは、人に対する思いやりが大切にされている」に対して、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒の割合88%(昨年度85.8%)	アンケート調査「安心して学べる学校を目指して」における設問「クラスでは、人に対する思いやりが大切にされている」に対して、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒の割合78.5%	○学校全体として、個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた授業改善を推進することができた。 ●自分から周りに関わることが苦手な生徒に対し、教員が積極的に関わったり周りと繋げたりすることが必要である。	困難な環境にある児童生徒に対し、情操教育を通じた安心感のある居場所作りを最優先すべきとの意見が集約された。具体的には、教師が鋭い「観察眼」を持って日常的な対話に努め、個々の多様な思いを汲み取ることが強く求められている。 また、学びの深化に向け、教師の意図的な配慮による多様な集団編成を重視。SSTやSGEを積極的に導入し、全生徒が「登校の喜び」を実感できる、包摂的かつ活力ある学習集団の構築を提言する。	学力を定着させるため家庭学習の習慣化を図ります。 また、挨拶や自転車マナーの課題に対し、生徒会と連携した意識啓発活動を強化します。さらに、家庭・地域との連携を強化し規範意識を高める指導を全職員で徹底して参ります。
健康な身体と体力の育成	保健・健康教育の推進	①保健だよりを発行する(月1回) ②熱中症マニュアルの見直しをする ③保健委員会による啓発ポスターの作成	①②③すべて達成。	①保健だよりを通して健康に関する情報提供や生徒の活動を伝えることができた。 ③保健委員による啓発ポスターを月ごとに作成し、クラスでの啓発および掲示を行うことができた。	コロナ禍を経て高まった生徒の健康意識を肯定的に評価。月刊の保健だよりを起点に、保健委員会活動の活性化を通じた主体的な関心の向上を期待する。今後は、疾患への対処法を含む具体的な情報の提供により、「自らの健康を自ら守る」生涯を見据えた自己管理能力の育成に注力されたい。	生徒にとって身近な内容を考えさせ、健康について関心を持つ生徒の育成に努めたい。また生活習慣の改善など毎日の生活に活かせるようにしたい。
	食育の充実	①家庭科の授業で栄養素の学習をすることで食への知識をつけ、夏休みに料理のレポート課題に取り組むことで食への関心を広げる。 ②学校栄養教諭と連携した授業や、昼の放送を活用して、給食への関心を広げる。 ③給食時に班での共食にすることで、楽しく給食の時間を過ごし、豊かな心を育む。	①家庭科の授業で栄養学について学習したり、調理実習を行った。また、夏休みの課題で料理のレポート課題を実施。 ②1年生で栄養教諭を講師に招いて食教育を行った。昼の放送で、その日の献立や食に関する内容の放送を行った。 ③各学年で給食時は班での共食を実施。	○各生徒が工夫をしながら料理に取り組む、食への関心につながった。 ○昨年度実施できなかった、栄養教諭を招いての食教育講座を実施することができた。普段自分たちが食べている給食の工夫などを知ることで給食センターの職員への感謝の気持ちを感想に述べている生徒が多かった。 ○班員と談笑しながら楽しく給食の時間を過ごしている生徒が多い。	・食を大切に作る姿勢や、楽しい給食の時間を確保してくださっていることに感謝いたします。保護者としても一度食べてみたいと感じます。 ・健康な生活には欠かせない知識として、栄養素や食事バランスについての深い学びを今後も継続していただきたいです。 ・調理実習の再開は大変喜ばしいことです。これを機に、お弁当作りなどの実践的な課題を通じ、家庭と連携して食の経験を積む機会をぜひ検討いただければ幸いです。	今後も①②③の取り組みを継続していく。
	基礎体力の向上	①「運動が好き」という生徒を増やすために、個々の体力や能力に応じたグループを組むなどして工夫して運動に取り組ませる。 ②運動について、自分自身の課題解決に向け、個々の能力に応じた運動が行える環境づくりの設定(習熟度別やグループ学習など)。 ③体育の授業だけでなく、部活動(運動部)において体力を向上させるメニューを継続的に取り入れる。	①②③すべて達成。	○全体の課題だけではなく、個別の課題を設定することで、生徒たちが運動能力に応じて主体的に取り組めるようになった。 ○全学年全ての領域においてグループ学習を取り入れたことで、運動が苦手な生徒も仲間と協力して取り組むことができた。	生徒の主体性を尊重し、運動の楽しさを伝える授業改善を高く評価します。個々の能力差に配慮した創意工夫ある指導は、運動への苦手意識を払拭し、将来の健康寿命延伸や基礎体力の向上に資するものと期待されます。	①②今後も継続して取り組んでいく。 ・新体力テストの結果を自己分析し、個々の能力に応じた目標を立てさせる。

	達成方策	R7年度の活動と短期目標・指標	達成状況	成果と課題	関係者評価	今後の改善点
自律し未来を切り拓く力の育成	長期欠席生徒の未然防止と社会的自立支援の推進	①保護者との連携を密にし、外部機関との連携やSC・SSWの活用を図る。 ②毎日の生活ノートでのつながりや学期ごとに教育相談を実施する。 ※学校アンケート「先生は何でも快く相談にのってくれる」に”どちらかといえばそう思う・非常にそう思う”と回答 生徒95%以上 ③不登校支援員・教育相談員と連携し、不登校生徒への家庭訪問や適応教室に登校する生徒への支援を行う。 ※長期欠席の割合を5%以下	①生徒や保護者をSCにつなぎ支援の見立てしてもらった。子ども家庭支援課、教育支援課と連携し、生徒支援を実施している。杉の子特別支援学校コーディネーに生徒の行動観察を依頼、支援方法の助言をもらった。支援部会の内容を学年会でも共有し支援のアプローチについて検討した。 ②生徒アンケート「困ったことがあれば、学校の先生に相談できる。77.2% (2学期)長期欠席者は13.6% ③毎週金曜日に2～4限教育相談員が適応教室で生徒への対応を行った。	○新規の生徒もSCにつなげることができた。 ○教育相談などを通して教員が生徒の相談に丁寧に対応していることが生徒のアンケート結果に反映されている。 ○支援部会で支援方法について検討し、学年会でも情報共有し実行した。 ○教育支援課、子ども家庭支援課、杉の子特別支援学校コーディネーターなどの連携支援 ●今後も長期欠席生徒の未然防止と支援に取り組んでいく必要がある。	「居場所」の多様化と実態把握の継続 保健室登校や専用ルームの設置など、生徒が安心できる環境づくりと、家庭訪問等によるきめ細かな状況把握を高く評価。 多職種連携による組織的なアプローチ 欠席原因の複雑化に対し、学校単体ではなく外部機関や専門職と密に連携し、忍耐強く「チーム学校」で対応することへの期待。 社会的自立を見据えた「一歩」への支援 将来の孤立(ひきこもり等)を防ぐため、スモールステップで登校意欲を育み、生徒の成長を中長期的に支える姿勢の重要性。	・個々の状況に応じたきめ細かな支援を継続するとともに、保護者との信頼関係を深め、心理的安全性に配慮した教育環境を構築する。 ・教職員同士での連携を図りながら①②③を継続する ・時代の変化に応じた特別支援教育に関する知識・技能のアップデートを行う。
	特別支援教育の推進	①個に応じた具体的な支援方法(適応教室Sクラス、TT、少人数学習等)や合理的配慮を推進する。 ②週に1回支援部会をもつ。必要に応じてケース会議や支援会議を開き、支援に活かす。 ③SCに生徒の行動観察をしてもらい、効果的な支援方法の助言をもらい、支援を行う。	①1年生数学で少人数授業やTTを実施。適応教室は2限～5限に開校。 ②支援部会で情報共有を行い、支援の方法の確認を行った。 ③SCからフィードバックをもらい支援に活用。	○国際教室のおかげで外国籍の生徒の支援が手厚く行えた。 ○SCから支援のフィードバックをもらい、支援に生かした。 ○杉の子特別支援学校のコーディネーターに助言をもらい支援に生かした。 ●少人数学習を継続して行えるとよい。	・全ての生徒が同じ様な教育を受けられるよう取り組まれていて素晴らしいと思います。 ・個々に応じた支援を引き続きよろしくお願いします。 ・細かなご指導がされているのだと感じました。少人数学習を継続して行えるように願います。 ・生徒やその保護者が安心して学習や学校生活を送れる様に配慮していただけることがわかりました。先生方の心身の疲労やストレスがあるかと察しますが今後どうぞよろしく願います。	・個々の状況に応じたきめ細かな支援を継続するとともに、保護者との信頼関係を深め、心理的安全性に配慮した教育環境を構築する。 ・教職員同士での連携を図りながら①②③を継続する ・時代の変化に応じた特別支援教育に関する知識・技能のアップデートを行う。
	キャリア教育の推進	①生徒が社会的・職業的自立に向けて各学年の成長具合に合わせた取り組みを行う。具体的には「職業調べ」(1年生)「職場体験学習」(2年生)「高校授業体験講座」「進路指導」「修学旅行における企業訪問」(3年生)。 ②キャリアパスポートを活用し、自分の生き方について見つめることで系統だったキャリア教育を行う。 ③進路通信、進路説明会、保護者会などを通じて様々な情報発信や相談会を行う。 ※学校アンケート「進路や職業について適切な情報提供や指導を行っている」50%を達成する。	③3年間を見通した取り組みの最終学年として、進学・就業に備えた教育相談の期間を増やした。また、全体の説明会に加えて任意参加の進路学習会も開催し、生徒の自発的な学習への支援も行った。 保護者への情報提供の点では内容の多様化がますます進み、重要度が増したと感じた。また、多言語に配慮が必要となり、医療等多機関との連携機会もあるなど学年内の適宜の情報共有を図り対応した。アンケート結果74%	③就業に関しては、昨年度の職場体験学習の経験を生かして、各自の将来像を描くことができつつある。進学については、年々選択の幅が広がっている。十分な理解のもとで個人の選択を支援できるように努め、現在は遅滞のない進行状況であるが、今後も保護者への確認や点検等に十分な時間をとることとしている。	キャリア教育は1年次から体系的に実施され、生徒の学習意欲向上に寄与している。今後は、多様な学外体験の継続に加え、ミスマッチをも学びに変える振り返りの充実や、情報過多に悩む生徒・保護者への専門的かつ適切な助言・情報発信体制の強化を期待する。	体験の継続に加え、ミスマッチを自己理解の好機と捉えるリフレクションを深化させます。また、専門家と連携した情報精査・相談体制を構築し、親子への発信力を強化します。
	生徒会活動の充実	①生徒会役員を中心に、生徒主体で学校をより良くするための取り組みを企画、実行する。 ②クラスルーム等を活用して、生徒会の取り組みを発信・共有する。	①より良いクラスや学校をめざす「クラスマイルweek」という取り組みを企画し、9月に実施した。文化祭では、SDGsについて知り、考えてもらうために動画やクイズを作成した。 ②クラスマイルweekの成果や課題などをスライドにまとめ、全校生徒に向けて発表した。	【成果】 生徒会役員を中心に、より良いクラス・学校をめざす「クラスマイルweek」という取り組みを企画、実行できた。 文化祭では、生徒会の作成した動画やクイズに生徒たちも興味を持っていた。 【課題】 生徒主体の取り組みが少ない。活動を定期的に発信することができなかった。	・限られた時間の中で、創意工夫が見られた。 ・文化祭では、SDG'sについてや多文化共生について学んでいた。伊藤智仁選手の話にも耳を傾けて積極的に質問をしていた。 ・生徒自体の取り組みが少ないとあるが、生徒たちの頑張りや努力もあったと思う。もう少し温かい目で見ながら、指導助言をお願いしたい。 ・生徒会役員は大変だと思うが、これからも「明るく・元気に楽しい大木中学！」をお願いしたい。役員だけではなく、全体にいきわたるとよい。	・生徒が主体となって企画・運営ができるように生徒と対話したり、サポートする。 ・生徒会の活動を生徒会通信等で発信していく。

	達成方策	R7年度の活動と短期目標・指標	達成状況	成果と課題	関係者評価	今後の改善点
安全で安心な学校づくり	いじめを許さない学校づくり	<p>①全教職員がいじめを許さない学校づくりへの当事者としての自覚を深め、早期発見や早期対応に尽力する。</p> <p>②生徒会が中心となり、生徒が主体的にいじめ問題について考え、いじめ防止に向けた取り組みを行う。</p> <p>③毎日の生活ノート、定期的なアンケートや教育相談を実施し、生徒がいじめを訴えやすい体制を整える。</p> <p>※ いじめアンケートの実施(年3回)及び認知事案についての保護者連絡(100%)</p>	<p>①達成:全職員でいじめ基本防止方針を確認し、いじめを許さない学校づくりへの当事者としての自覚を深めた。</p> <p>②達成:4月と11月にピンクリボン活動の啓発をし、いじめ防止の取り組みを行った。ピンクの名札の作成や挨拶運動などを行った。また生徒にはピンクの蛍光ペンを配り啓発活動を行った。</p> <p>③達成:生活ノートの提出により教員と生徒の関係構築に役立てた。また、定期的なアンケート・教育相談は計画通り実施できた。</p> <p>※いじめ認知件数 2件(2学期末)。 ※保護者連絡 100%</p>	<p>○いじめアンケートやいじめを認知した際には学年職員を中心に早期対応・解決につながるよう取り組んだ。</p> <p>○道徳や総合、学活などで生徒間の横のつながりを増やし、相互の理解を高める取り組みを進めることができた。</p> <p>○いじめ認知件数が2学期末の集計であるが昨年2学期末15件から大幅に減少した。</p> <p>●いじめの認知件数が減っているとはいえ、学級での生徒間トラブルはよくあり、いじめにつながるように休み時間の巡視などしていく必要がある。</p>	<p>【評価されている点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知件数の減少と初期対応:いじめの認知件数が減少している点や、先生方の「早期発見・早期対応・早期解決」への尽力 成長を促す指導:トラブルを単に無くすだけでなく、どう対応すべきかを学ぶ「生徒の成長の機会」と捉える指導姿勢 <p>【今後の期待・要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> 連携と対策の継続:いじめを許さない学校づくりのため、学校・家庭・地域のさらなる連携と、長期欠席を防ぐための対策継続(地域の「ハートリボン運動」のような啓発活動への言及もありました) 声を上げやすい環境づくり:当事者だけでなく、周囲の生徒が見て見ぬふりをせず、状況に応じてためらわずに声を上げられる雰囲気づくりへの期待 <p>【懸念・注意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常の些細な行動への注意:休み時間のふざけ合い(廊下で寝転ぶ、プロレスごっこなど)が、予期せぬトラブルやいじめに発展する可能性があるため、細やかな注意と見守りが必要 	<p>いじめの件数自体は減少しているが、ちょっとしたトラブル等はまだまだ依然としてあるので、アンテナを高くして今後も引き続きいじめのない学校を目指して取り組みを進める。</p> <p>生徒・教師がいじめを許さない雰囲気づくりを積極的に取り組んでいく。</p>
	交通安全教育の推進	<p>①交通安全教室の実施や全校集会での啓発を行う。</p> <p>②交通委員会による啓発ポスターの作成、お昼の放送で交通安全の呼びかけを行う。</p> <p>③一斉下校の際などに駐輪場にてヘルメットの正しい着用の呼びかけ・指導を行う。</p> <p>※学校アンケート「交通ルールを守っている」「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思う」合計)生徒95%以上(昨年度93.4%)</p>	<p>①1年生で交通安全教室を実施。各学期の始業式・終業式で交通担当より啓発を行った。</p> <p>②交通委員による啓発ポスターを月ごとに作成し、クラスでの啓発および掲示を行った。</p> <p>③下校時に駐輪場で見守り、声掛けを行った。</p> <p>※道路交通法改正により令和8年4月からの自転車の背切符制度導入にあたり、3年生向けに法改正のポイントを伝える授業を3学期に行う。</p> <p>生徒アンケート94%</p>	<p>○地域の方から生徒の交通マナーに関する連絡があった場合は、学校で指導するとともにtetoruで保護者にも内容の配信・共有を行い、家庭でも指導の協力を依頼することで連携を図った。</p> <p>●髪形に関する校則改正により、お団子の状態のままヘルメットをかぶる生徒に対してどこまで指導を徹底するか。</p> <p>●自転車の飛び出しやヘルメット非着用に関しては引き続き生徒に指導・啓発をしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道交法の改正で自転車に対する罰則の強化について3年生だけではなく1年・2年生にも指導してほしい。通学の時だけではないことも理解させたい。 ・中学生でいきなり自転車にのる子もいて心配。交通安全教室を引き続き実施してほしい。 ・登校時に見守り活動をしていると並進して登校してきたり、道路いっぱいまで広がって登校してくる生徒が多い。上級生になるとすごい勢いで走行してくる生徒もいる。お団子の上にヘルメットが載っている生徒も何度も見かけている。駐輪場に入る前にヘルメットを脱いで前かごに入れる生徒がいる。これらは注意されているにも関わらず直さない。安全教室の実施や啓発だけでは限界があるのか。今後も教員と連携して注意していきたい。 	<p>交通安全教室は今後も継続。地域の協力も得ながら引き続き生徒への交通ルールやマナーを指導していく。</p>
	防災教育・訓練の推進	<p>①避難訓練を每学期(年3回)実施する。</p> <p>②防災カルテ等の作成、年間計画や避難行動等のマニュアルの見直しを行う。</p> <p>③震災を教訓にした防災教育を行う。</p> <p>④校区小学校と連携した津波避難訓練(1年生)を実施する。</p> <p>※学校アンケート「災害危機管理について、保護者・地域との連携を図っている」に「非常にそう思う」と回答した保護者15%以上 (R6年度9.8% R5年度9.9%)</p>	<p>①2学期に2回実施し、3学期にも実施予定である。</p> <p>②年度当初に見直しを行っている。</p> <p>③避難訓練実施に併せて、防災ノートを使った学習を行った。</p> <p>④11月に実施した。</p> <p>※学校アンケート「災害危機管理について、保護者・地域との連携を図っている」に「非常にそう思う」と回答した保護者9.8%</p>	<p>①避難訓練は実施するが、馴れ合いになってしまう部分がある。</p> <p>②担当者のみが見直しをするだけで、学校全体として検討していない。しかしながら、その時間を捻出するのは難しい。</p> <p>③避難訓練と同様、学習のための学習になってしまいがちである。</p> <p>④津波の危険がある場合に、本当に箕田小へ避難するべきなのか検討する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は大切ですが、同じことばかりしていると中学生に限らず、馬鹿にする様な事になる。変化するシナリオで実施してほしい。 ・些細なことでも知っているというだけでは、災害が起こった際の行動が心理的なストレスが変わってくるのではないかと思います ・津波からの避難の際、なぜ箕田小まで行くのかわかりません。 ・とりあえず中学校の屋上に避難して、落ち着いたら小学校への避難とかか・・・。 ・避難場所は、箕田小ではなく垂直避難でよいと思います。災害危機管理について保護者や地域関係者との連携が図られているとは思わないし、感じられません。種々の研修会を開き防災意識を高めてもらいたい。 	<p>実際に災害が起きた時にどのように行動すべきなのかを全職員で検討し、それを避難訓練の中で実践し、そこで出た課題等について改善していく。</p> <p>生徒たちも、訓練のための訓練ではなく、災害が起きた際にどのように行動すべきか、生徒自ら考えたり話し合ったりする機会を作る。</p> <p>以上のような内容を地域に向けて発信していくことで、地域との連携を図る。</p>
	施設・設備点検の徹底	<p>①施設・設備の安全点検を、每学期実施する。(年3回)</p>	<p>①達成</p>	<p>○定期的に安全点検を実施し、修繕箇所等が発見された場合は、迅速に市教委と連携し、修繕等を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に対してはある程度の感性が必要であると思います ・校内を見廻ったとき、に特に目立った危険物等を含めて異常はなかったと思いました。今後も安全点検をお願いします。 	<p>新設校舎になり、各所に修繕箇所が発生してきている。日常点検や定期点検を行いながら、施設を大切に使う意識も醸成していきたい。</p>

	達成方策	R7年度の活動と短期目標・指標	達成状況	成果と課題	関係者評価	今後の改善点
開かれた学校づくり	部活動の在り方や図書館の活用など課題の協議推進	①「部活動の在り方」や「図書館・会議室の活用」を学校運営協議会で協議する。 ②図書館司書中心に学校と地域・地域図書館CDの連携により、休日の図書館・会議室の地域活用を実施する。 ※学校運営協議会委員へのアンケート等により検証	①②ともに、ある程度の提案等は、達成した	○月別図書館開放スケジュールを保護者・関係小学校・中学校HPに掲載 開放時に読書のみではなく、学習スペースとしての利用なども見受けられた。 ●開放を維持するための、ボランティアの方の絶対数確保	地域連携や図書室開放が着実に進む一方、活動を支えるボランティアの確保が共通の課題です。今後は地道な発掘支援に加え、学校通信や地域組織との更なる連携強化により、持続可能な協力体制を構築することが期待されます。	ボランティアの継続的な発掘と募集を行い、体制を整えることで、魅力ある図書館のさらなる活性化を目指します。また、地域や諸団体と密に連携し、学校情報を積極的に発信します。
	地域づくり協議会との連携推進	①若松、長太、箕田、若松の地域づくり協議会で広報し、地域人材の活用を図る。 ※部活動外部指導者1人以上の配置 ②部活動地域移行について進捗状況の周知を行う。	①②すべて達成。	○地域人材を活用しながら、新しい部活動への移行が進んでいる 特に11月より、「部活動地域移行活動」で、14種目が地域移行活動をしている ●競技種目により、いわゆる受け皿の数の問題と送迎等の保護者負担	地域づくり協議会との連携や部活動の地域移行を前向きに捉える一方、指導者の確保と情報共有の不足が課題です。また、安全・安心な活動のため、外部人材の活用には慎重かつ厳正な人選を求めている。ほしい。	地域連携を強化するため、協議会間での迅速な情報共有体制を構築します。また、指導者の確保に向けて広く人材を募る一方、適性を見極める厳格な選考基準を設け安全性を担保します。
	校区小学校との協働	①校区小中学校長会を年12回開催し、校区連携を推進する。 ②8月に校区合同研修会を開催する。 ③オンライン等を含めた小中の専門部会を年3回実施する。 ※学校アンケートによる検証	①②③すべて達成。	○月1回以上の校区校長会を実施(大木中・長太小・箕田小・若松小)、その他、将来の小中一貫教育を目指した連携を図っている 8月4日に全教員が参加して、①人権研修会、②分掌別研修会を行った 分掌専門部会は、学期に1回程度実施	小中一貫教育に向けた取り組みを高く評価します。密な連携により、小学校から中学校へスムーズに入学できる環境はこの地域の強みです。今後も両校の連携をさらに深め、より良い教育体制を築くことを期待します。	小中一貫教育の質をさらに高めるため、教職員間の合同研修や授業交流を一層活性化し、学習指導と生徒指導の両面で児童生徒の情報をきめ細かく共有する体制を強化します。
働きやすい環境づくり	総勤務時間の縮減	①「定時退校ウィーク」「留守番電話の設置」「メールを活用した欠席連絡システム」を活用して、総勤務時間の縮減を図る。 ②土日の活動や参加大会の精選などによる、部活動への従事する時間の縮減を行う。 ※学校アンケートによる検証	①未達成(定時退校ウィークは設定できなかったが、総勤務時間は縮減している) ②未達成	○「留守番電話」「メールを活用した欠席連絡システム」を設置し、負担軽減を図ることができた。 ▲生徒からの要望も強く参加大会の精選が難しい。	・土日の活動については、制約の中で前向きな方向で推進していただきたい。 ・先生方には自分の身体、自分の家族を大切にしてください。働きやすい環境を作ってください。 ・学校だけの対策では難しいと思いますが、継続していただきたいです。欠席連絡システムはとても便利です。 ・日頃の授業だけでも大変ですので、いろいろなことも含めて定時退校は難しいとは思いますが、忙しすぎて体調を崩さないように案じます。 ・生徒たちは外部ではなく、中学校から学校の代表としての大会参加がしたいとの願い、その思いが強い気持ちはよくわかります。先生方も多忙で厳しいとは思いますが、生徒たちの気持ちを汲んであげてください。	総勤務時間の縮減は、前年度比で減少している。教職員及び保護者の意識も変わりつつある。職員の働きがいを見失わず、生徒へ向き合う時間を確保するためにも、引き続き業務改善を図っていく。
	部活動指導員の活用	①卓球部・バレーボール部に部活動指導員(各1人)を配置し、顧問の負担軽減を図る。 ※学校アンケートによる検証	①達成	○卓球部・バレーボール部に部活動指導員(各1名)を配置することができた。 ▲職員の日々の時間外労働軽減について、地域人材等の活用を広げる必要がある。	・人材の確保が大変な中、評価できる内容です。 ・なかなか、地域指導者の人脈がなく、協力ができずに申し訳ありません。 ・部活動指導員の配置ができ、良かったと思います。人間性も素晴らしい方だと思います。生徒たちが親しみやすく又、スポーツでその競技に打ち込めるように、指導をしてください。	令和8年10月以降、学校部活動は、土日の活動を行わなくなるが、平日対応の部分で、引き続き部活動指導員は継続していきたい。